

松屋筆記

卷廿二

45
397
6



Faint red rectangular stamp or mark in the upper left corner of the left page.

Red rectangular stamp in the upper right corner of the right page, containing the numbers 15, 1397, and 6.

Handwritten number 55 in the upper right corner of the right page.

Vertical handwritten text in the lower center of the right page, including the name 高田早苗 (Takada Sanae) and a date 昭和五年二月六日 (February 6, 1930).

松屋筆記

廿二



るんてらる

松屋筆記

- ⑨ 水碓
- ⑩ 風鈴の詩
- ⑪ 本廬杯
- ⑫ 龍湫随得集抄出
- ⑬ 十二類画詞抄出
- ⑭ 高上見ぬ鴛鳥
- ⑮ 一べーげと云詞
- ⑯ 骨張
- ⑰ 老けはらひ
- ⑱ 女と云詞

- ⑲ 返抄
- ⑳ あま
- ㉑ 志ん
- ㉒ 釣のつら
- ㉓ 歌の好玉地歌百首歌のり
- ㉔ 高源氏ふぶん歌よりの惜
- ㉕ 火中と云詞
- ㉖ 橋占
- ㉗ 近江の庄
- ㉘ 膝拍子并晩出家

- ① 西山上人縁起抄録
- ② やらうりあいの番
- ③ 真如老縁起抄出
- ④ 真如老縁起番抄出
- ⑤ 一夜千本の櫓
- ⑥ 花園田
- ⑦ 馬鹿者

松屋筆記卷廿二

源興清文儒稿

① 骨体折

骨折の字唐の書えらむ夫木抄

雜十箇部子信實

より折れしとせるともやや

骨を折るを折るつら

殿日記十の巻終已

腰もよよつらつら骨折

主人のまゝあがらる

一切経音義
丁才折骨
折骨
後漢書白雲圖
折骨
折骨

三 室町殿日記抄録

一の巻 ○ 郷奉行 ○ 櫻の生花 ○

花の家 ○ 一人竹袋 ○ 新子よ ○ 山坊

役地子 ○ 徳政 ○ 信類 ○ 蔵記

見臺 ○ 衣服屋 ○ 利

織 ○ 丹田山油 ○ 木綿 三十四疋 ○

切米 三石 ○ 武者修行 ○ 菊屋

酒 ○ 中間衆小者衆所扶持方 ○

三文子利 ○ 上下 ○ 同心の者三

十余人 ○ 同心の者三 ○ 同心の者三

地子大同記上社
信類百五
ナニヤコ

未配
開巻
三テ

二の巻 ○ 再拜と女振 未配 ○ 最明

寺時頼入る諸國に塔婆を建 ○

木綿羽織 ○ 日くらの頭巾 ○

兵法者 ○ 多く良氏の子 ○ 手袋

鈕 ○ 横目 ○ 今の目

三の巻 ○ 五種の者 ○ 巻樽 ○ 所

領所 ○ 利是四割五割 ○ 過銭

今の過科 ○ 利是四割五割 ○ 過銭

四の巻 ○ 伊勢溝 ○ 詞堂銭 ○ 美

振費、美の産 ○ 家老 ○ 高野聖

高野聖
之は身三世の

後大平記三ノナカ

新子よ
山坊
蔵記

○^{セチ}節振舞 ○^三川の舞 ○^三國の記 ○

脚指

△^{高田}十四の巻 ○塩屋 ○うけ ○服巻

△^{南原}十五の巻

△十六の巻 ○鳥の豆歌 ○相模箱根山

中歌 ○洛中洛外の境 ○あまの

△^{嵯峨}十七の巻 ○伏見所香宮え 和舞

出陣の巻 ○一首扇 伝説 ○七

り木 ^{藤伝記}

△十八の巻 ○船名宮徳丸を日存丸と改

○日蓮宗を當宗とよぶ ○悲田と

りあ宗つ ○二谷半の食 ○

△十九の巻 ○つづもい 哥 ○こみこい 哥

○豆畑 哥 ○きんぐま ねり 哥 ○大

つみ 哥 ○いん歌 ○天狗 ○いら

なあり ねら ○松翁 前折 けりきり

○みきり づ ○刀 打刀 切刀 せし ○せが

○^{三味線} 三味線 ^{狂言記} ○喧嘩 買

○捕手 竹内流 ○しつ 歌集 ○女

廿の巻 ○卜傳 兵法 卜傳歌集 ○女

三國の記 三國の記

21

四龍湫錄龍湫集
龍湫錄二卷龍湫周澤和尚
錄錄之正統元年春正月月初吉阿
育五山庵利祥寺住持願在龍湫
宗體原之序也明體原又於
人之後序也與之龍湫遺誡
龍湫和尚行狀也附之活板也
行狀云祥師諱周澤字龍湫
自號龍湫或甲州武田氏子母源氏
於延慶戊申元年而延年歲

六歲母攜師登平州龍山查
渴云覺國師云此兒生而有齒
髮人以為不祥輒指諸野蠻者
力宜白二大周旋衛護錄是
抱歸乳養養令彼侍祝下
為弟子因所一見知法器為驅
烏沙強與信錄司普明目師
為法昆等并同日出家親炙左右
既者年也永和二年八月起師
領天龍席遷戶臨川宮陞臨川

為五山外一坐七寒暑百廢具興
已而謝事居三層院於境三年
師者秋七十九林一月相以強復
領三南釋凡主名山者七層嘉
慶二年三月二十六日遺誠教條授
門人等九月九日怡然示寂于先德
山書堂下院在善提位中歷七十
六夏示人問壽六十有一年云々
とる子隨得集二卷あり詩文集
二卷子今之所傳者巨海之一滴也

曰七會録是曰隨得集云々為
活版一而部昭示不朽流世
寶示了了矣九月九日不肯遠孫
租縁謹跋と云々

④ 画日記

源氏物語明石巻 湖月抄 子能をい
まか海虫集めて早あし一巻をい
遊りごと岡づきとす子能をい
るん人の心まみあづきとす
りぞもそら子能をい

四因雜記

水滸

日機

唯邪

三五

八の花
同首上卷 雪松の詩子六出 今年 晴去年 蒼髯白盡在 前不凋 負操 無身 但見云

九 水確

同 上 卷 理 極 水 確 詩 あり 新 立 機
閑 急 水 濱 花 用 確 節 別 成 者
老 盧 君 識 有 今 日 頃 向 昔 結
轉 此 轆 唐 王 聖 序 亦 水 確 詩 あり 服 以

水車

十 風 鈴 の 詩

同 首 中 卷 風 鈴 の 詩 あり 縁
為 命 也 鐵 為 躬 掛 向 雲 頭 飲
好 風 四 十 九 年 金 口 洗 都 成 一 句
道 丁 東

十一 木 癭 杯

同 首 下 卷 義 木 癭 杯 文 并 序 あり 其
序 子 好 事 者 衰 無 用 于 世 伐 弱 易
癭 以 命 樽 人 為 之 飲 器 稱 之 曰 木
癭 杯 云 文 子 云 木 癭 一 一 恒 且 奇 也

可形感信云、持人為器准于玉虎
今周平其内外支離兮云

③就缺随得真抄出

上卷好和韻篇午詩之文人當言

與懼くひ○又得在十牛の詩あり

○中卷理極和景瑞山窪剛未十境

之韻詩あり○又得在次無垢有礙

上韻并引あり引上極州武庫山又

名者馬行碧善菩薩開山建寺

安樂師如來像一其左有澤垢

千田其右有靈湯三槽又其傍之

菴名無垢以極從來之信也云○

又得在湯山十河韻あり者馬湯

中二地獄泉詩あり獄泉傍出

黃泉冷氣高穴人同八莫未識鈕

林乃葉利昔山四面好生者○又

持拜真野入定塔詩あり

④十三類詞抄出

十三類画卷の五の好古日録より

○體て出之○さうま引矣た

鑑の箇のいどの物出なき所見一巻
え鉄衣を再全存をも得え物出次

⑤ ぶつ之ぬ 終焉

夫木抄の歌よしくく之ありしとあり
三類画の記も就寫の記も記し
やうこのよきありやうつ之あり
武者え三類の人とあり

⑥ づーげと云記

長明無名抄上巻政歌佐亮撰

白目
身

事の染あまづーげよあはるとも
ふい盛氣記に盛衰記に盛衰記とあり

⑦ 骨日張

日巻不可三身仙く由教訓のあり
身もたるとほひのこすことあり
骨張の字も印もあつことあり

⑧ けけ下い

日巻哥半筋句のあり哥のあり
ぞきいなるあつことあり
とみ之氣の色をケスラもとらふことあり

国大
類

子凡哥の地と文と極てきうく
はるしと考のふいしとあふ考も
みとええしと目うさつちあふはま
かひうれつひん地哥とふあふは
はひちまふるしとあふうらあ
あふまふとふしとあふうら
文とふとふとふとふとふとふと
地哥とふとふとふとふとふと
百音中とふとふとふとふとふと
あふしとふとふとふとふとふと

まののさいし
文とふとふとふとふとふと
とふとふとふとふとふと

昔 伊氏 ぶふん 歌ふは 口指
又云ふ百とあふのふとふとふと
あふしとふとふとふとふとふと
とふとふとふとふとふとふと

昔 大仲 ときふ

同とあふとふとふとふとふと
大仲とふとふとふとふとふと

上とを片山（山）の奥子（子）とす

② 橋占

西山上人縁起卷一持子一保堀河の橋の占りて橋占（占）とすけりときてお子源平盛衰記（記）も入る

③ 近江小野庄

同書三世に江州（江州）小野庄を初施入の地として（として）の不断經の料所（料所）を定らむけりてお子（お子）和歌所の領（領）とすけりといふやうに後（後）縁（縁）成（成）

院の時代

④ 藤拍子并晩出家

同書四の巻に藤拍子（藤拍子）をわけて宣説（宣説）やとすけりて又（又）稗實（稗實）信房（信房）の晩出家（晩出家）の身（身）ありとすけりてお子（お子）の附（附）房（房）とすけりてお子（お子）の晩出家（晩出家）ありとすけり

⑤ 西山上人縁起繪抄録

繪像（繪像）西山上人縁起（西山上人縁起）の巻三（巻三）結（結）寺（寺）の撰（撰）也（也）とす頃（頃）張（張）の辨（辨）才（才）

和尚校右しん刊本と別子附録一卷
略解一卷此まつての母より古書なり
画中考證以る事あり外別も
西山鑑智國師画師とある事あり
鑑智の寛政帝の賜證号なり
○卷一村丁女の布廿笠者るる画○は
村丁馬の籠つたるる画○は村丁
柿をりしむたる画○は村丁
算注道のりしむる画○は村丁
牛飼
畫の圖○

卷二村丁本師匠の封札を可しけり
○は村丁石垣の画○は村丁
和寺の經藏中佛あり○は村丁
麻寺曼陀羅のりしむる画○は村丁
大寺巡礼あり○は村丁
附一あり○は村丁
卷三村西山善峰寺從生院○
は村丁
雷公太鼓の画○は村丁
西の寺名は阿知坂あり○は村丁
山あり名づけあり○は村丁

生院 ○は 淨 ^{從生院} 三 ^院 教 ^の 寺 ^の 行 ^の 号 ^{あり}
三 ^收 五 ^時 崎 ^三 鈴 ^の 形 ^子 似 ^る 方 ^之 事 ^と
う ^や ま ^り ○は 種 ^報 恩 ^講 ○は 日
世 ^三 丁 ^石 恒 ^の 面 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面
○は 世 ^九 紙 ^障 子 ^の 面 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面
○は 世 ^九 鳥 ^身
居 ^の 面 ^石 恒 ^の 面 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面
○は 世 ^九 鳥 ^身
款 ^表 三 ^院 不 ^断 願 ^寺 不 ^断
梵 ^網 經 ^の 讀 ^誦 地 ^は 何 ^の 地 ^と して
分 ^の 野 ^左 右 ^と 勅 ^施 入 ^の 地 ^と して
の ^不 断 ^願 寺 ^の 地 ^と して 守 ^ら せ け る

○は 稻 攝 州 武 庫 河 ^の 口 ^と して
一 ^の 加 ^藤 寺 ^と して 淨 ^持 寺 ^と して 淨 ^持 寺 ^と して
口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面
卷 ^四 行 ^天 聖 ^寺 不 ^断 願 ^寺 始
行 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面
面 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面 ^の 口 ^は 持 ^敷 院 ^の 面
人 ^五 部 ^の 大 ^乘 經 ^天 台 ^十 卷 ^淨 持 ^寺
涅槃 ^經 善 ^薩 戒 ^新 記 ^顯 戒 ^論
顯 ^揚 大 ^戒 論 ^等 所 ^校
と 用 ^え 未 ^来 の ^益 也 ^と して 守 ^ら せ け る

世了帝女坐面〇口世行三回
 志陰〇口得積學房抄〇
 石塔の面
 卷五呼才録倉の辨二が字の夜室〇
 口得了石塔の面〇同付此去嵐の面
 〇口世了相の面
 卷六行録倉の聖福寺をえ然
 野三所権現と勸清なる可
 良善法印とよ山伏あり〇同
 得唐筆の面〇同付つけ巻の衣

同七の巻 附録の黒若竹 〇得才 白木の
 倉佛 〇同付此 自筆 判形の状 〇
 口得了 同付此 度子 〇

卍 やら〜 あいよの面

奥清曰今の世れやら〜 あいよ
 のおあま子見え〜 後三年繪
 西山と人縁起繪梅津長者繪
 たり〜 は三年繪見え〜 下賦
 の奴姑〜 西山と人縁起梅津長
 者外〜 七子〜 〇人〜 〇

いと下賤の者もあつた

④真如堂縁起抄出

京都神樂出鈴聲山真如堂
阿弥陀縁起三卷の大永甲申年
八月大僧正公助記と比り掃部助
久國画箇を多し元禄六年十月

刊行

上卷 丁種子志賀郡 苗鹿明神

近目 ○げ本のものと切毎夜放光明

問大師懐之み孫て抄りて見

二片の坐像の佛躰 一片の立像

の等形本の目もありやうなり

○又横丁三度うりたり

中表行にある河の一人の夢を子道

花織の錦の巻出たるは河須

持戒堂上人云々 ○又行巻後

門可奉誘船加井を治は徳運

水今後門開加井是也云々 ○又行

蓮花堂子のつらにをるやんを水

涌出の所字は門子あて、瑞龍壇
を築て二室の倉下の土を、とめ埋
て其上より御子地達三つありき
○又^{ナカ}岩^ノ達^ノ石^ノの^ノ状^ノ子^ノは^ノ今^ノア^ノシ^ノキ
夏^ノ系^ノモ^ノ亦^ノ取^ノ申^ノニ^ノモ^ノカ^ノリ^ノシ^ノリ^ノカ^ノ是
耶^ノニ^ノ亦^ノナ^ノホ^ノシ^ノン^ノツ^ノク^ノハ^ノ今^ノア^ノシ^ノク^ノ其^ノ從
生^ノハ^ノ變^ノ定^ノ山^ノ道^ノニ^ノツ^ノク^ノハ^ノ源^ノ空^ノガ
一期^ノ程^ノハ^ノナ^ノカ^ノヤ^ノ聲^ノ申^ノツ^ノク^ノハ^ノ念^ノ件
カ^ノヤ^ノ申^ノナル^ノト^ノテ^ノシ^ノバ^ノリ^ノタ^ノリ^ノ事^ノ更^ノニ
續^ノ延^ノ見^ノエ^ノズ^ノハ^ノ云^ノ々^ノ○又^ノの^ノ奥^ノ書^ノ

ヒラコカハカレハ一懸ヤハクシク短キ
ナル子不可然ハ六賢又云○同
持安嘉門院^{後鳥倉院皇女}孫^{コト}子^{コト}他
内海依仍攝津国柳津左橋
内園河所之内先負名換橋之内
為燈油料^{所寄}之^是則^也短
上^在燈^也呂^田也^燈者^也石^也○同^世仁
美作国富田之内^原田^里地頭職
之^同○同^世富^永の^比子^ヤ一^条の
是^ガリ^日今^亦流^る俗^{あり}ハ^{あり}云^々

○同世社伏見院所宇安居院禪
尼夢急 弥陀歸依信心湯仰異
子他 一之為燈油料和河右
長原庄寄附之云々

下卷 所應仁の月 ありて
田申の園にしや 一は尼ありて
又執了 六太子一字を建立し之文明
二廣 寛永三年三月十五日 六太子有
如卷 号寶光寺 一尼年八物云々
又丁 福帝燈二器 障鏡之内云々 花巻田

之内 所寄附之云々 ○又 持了 義作
国 大葉郡 自太嶋 庄云々 ○又 持了
防州 寺 有海 辨才 天云々 口 深柳
山 森崎 明神 ともい 勢州 嚴嶋 明
神 一もい 前より 一の 森崎 一
向 一 森崎 地蔵 堂 所 教 加
と 中 一 云々

○ 類 及 之 園 日記 子 始 之 云々 ○ 敷 皮 之 園
上 卷 ○ 鏡 之 之 園 ○ 屋 形 舟 之 園
○ 眞 女 縁 起 之 園 抄 出

花園田之内所寄附之者
三利將軍家より寄附し花園
に古歌をよみたるは花地植の園あり
うら花園田とあるは花園状造
料の四つなり

馬鹿者

馬鹿者といふ詞太平記節用集
に物事ありて之を越高の故
に破家なりとあり馬鹿
破家なりとあり借字也

源氏物語明石の巻

入をよと地の上なりと
ひるまひのいりそあり
ひくそつるありおる
そはひりたりと
ありえありあり
はありありありあり
けを通るありありあり
大光明寺三輪慧心
釋純保家剛純破家
是理之五也

德山臨濟乃破家之子為仰父子真保
義見之

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a text. The text is written vertically on the left page of an open book. It consists of approximately 12 lines of characters, which appear to be a mix of Chinese characters and possibly some phonetic or shorthand symbols. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically on the right page of an open book. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.



